

# フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.johas.go.jp/>



## 「如月の頃に思う」

中部ろうさい病院 院長 加藤 文彦

遅ればせながら、新年あけましておめでとうございます。皆様が穏やかな新年を迎えられたことを祈念いたします。なお、この文章が皆様の目に触れるのは2月となりますので、2月(如月)の事を書かせて戴きます。

私自身が2月22日(猫の日)生まれですので、2月という月には特別な思い入れがあります。2月を「如月(きさらぎ)」と旧暦(太陰暦)で表現しますと、真っ先に私の頭に浮かぶのは、平安時代の僧侶、西行法師の有名な和歌「願わくは花のもとにて春死なむその如月の望月の頃」です。現代文にすると「叶うことならば、桜の花の下で春死にたい。2月15日の満月の頃に。」となります。旧暦の2月15日頃は現在用いられている新暦(太陽暦)の3月末頃であり、桜の花の咲く頃となります。また、旧暦では月齢が日付となりますので、毎月15日が満月となります(満月の夜のことを今でも十五夜といいます)。一方、旧暦の2月15日はお釈迦様の入滅の日です。

つまり、西行法師はお釈迦様の命日に死にたいと願う歌を詠んだということです。そして、その思いが天(お釈迦様?)に通じたのか、西行法師は2月16日に亡くなっています。

現代の本邦では高齢化が進み、要介護の方が増加傾向にあります。そこで国家のみならず皆さんが気にしだしたのが、平均寿命よりも健康寿命です。すなわち、できるだけ人の世話にならないように、寝たきりとなる期間をできるだけ短くして人生の最後を迎えたいという思いです。そこで皆さんが願うのが「ピンピンコロリ」です。西行法師は「ピンピンコロリ」だったようで、亡くなる前年に京都高雄の神護寺に登っています。しかし、現代では西行法師のように「ピンピンコロリ」となれる可能性は10%しかありませんから、90%の確率で終末は「寝たきり」であると思っただ方が賢明かと考えます。すなわち、自身の終末を想定して生活環境を整えつつ、日々の健康に気をつけて生活していくことが大切なのではないでしょうか。

### 今月号のお知らせ

- ①「如月の頃に思う」……………院長 加藤 文彦 ……………外来看護師長 鈴木 美代子
- ②当院の分娩の現状と4Dエコー外来開設、  
子宮頸がん検診と腹腔鏡下手術の今後について ……………糖尿病看護認定看護師 平松 一葉
- ……………産婦人科部長 藤原 多子 ……………第12回市民健康セミナー開催報告
- ③認定看護師紹介 ……………耳鼻咽喉科医師 楊 承歡
- ……………透析看護認定看護師 吉松 紀子
- ④初の糖尿病週間 院外イベントを終えて ……………院内行事のご紹介
- ……………編集後記



医師

## 当院の分娩の現状と4Dエコー外来開設、 子宮頸がん検診と腹腔鏡下手術の今後について

産婦人科部長 藤原 多子

昨年は当院の分娩予約を一時縮小し、皆様には多大なご迷惑をおかけ致しましたが、現状は分娩を再開させていただいております。厚生労働省が作成した出産に伴う合併症を予測する妊娠リスクスコアをもとにして低～中リスク妊娠に該当する方を分娩予約させていただいております。当院にはNICU(新生児集中治療室)がありませんので、妊娠35週未満の早産となった場合は高次医療施設と連携し迅速に対応いたします。

今年から待望の「4Dエコー外来」を新設いたしました。妊娠中の胎児エコー画像の精度は年々飛躍的に向上しています。お母さんのお腹の中にいる児の表情や動きなどを4D画像で確認することで、児の成長を実感し妊婦の母性形成に役立つと言われております。本年1月より完全予約制かつ自費診療で4Dエコー外来を開設し予約をお受けしております。妊娠週数により見え方も変わりますので、胎

児の表情がよく見える時期や条件にご興味がある方は産婦人科外来にぜひお問い合わせ下さい。

近年20～30代における子宮頸がんの罹患率が増加しています。妊娠・出産にも関わる問題であり、20歳からの子宮頸がん検診が勧められています。検診で異常が見つかった場合には子宮頸がん検診の精密検査(二次検査)が必要になります。コルポスコピー検査は病変部を拡大鏡で観察することで診断精度を上げ、適切な治療を選択する事が可能になるため、産科婦人科診療ガイドラインでも強く推奨されております。検診で二次検診が必要となった場合には産婦人科外来にお問い合わせいただき、コルポ外来をご予約下さい。

腹腔鏡下手術で手術可能な婦人科疾患は近年の医療機器・医療技術の進歩により大幅に適応が拡大しています。当院においても手術件数は年々増加し、入院期間が短く、痛みなども少なく傷も小さいため、患者様より高評価をいただいております。婦人科疾患で手術が必要な患者様および術式についてご希望がある方は外来にて担当医にご質問下さい。



⇔最新鋭のエコー装置と4D画像





## 看護師

# 認定看護師紹介



認定看護師とは日本看護協会が認定している資格です。認定看護分野は、全部で21分野あり、

当院には13分野17名の認定看護師がいます。

私は透析看護分野の認定看護師として、透析室に勤務しています。

みなさんは「透析」をご存じでしょうか。何らかの原因により腎臓の機能が低下した末期腎不全の患者さんに対して、血液中の老廃物や余分な水分を取り除いてきれいにする治療法です。



透析には「血液透析」と「腹膜透析」があります。どちらの治療法もメリットとデメリットがありますので、ご自身の病状とライフスタイルに合わせて治療法を選ぶことができます。日本の透析医療の進歩は目覚ましく、世界でもトップレベルです。透析導入後の5年生存率は60.8%、20年以上の透析歴の患者さんも年々増えています。しかし透析だけでは元の腎臓の一部分の役割しか補えません。そのため患者さんは食事や塩分水分制限など様々な自己管理を続けながら透析をしています。

透析看護認定看護師 吉松 紀子



当院の透析室は、透析機械とベッドがずらりと並び、非日常的な空間です。血液透析は、週3回通院するのですが、お仕事を続けながら透析通院される患者さんや、趣味や旅行を楽しんでいる患者さんがたくさんいらっしゃいます。私の役割は、患者さん自身がその人らしく療養生活を継続できるよう支えていくことです。患者さんが安全かつ安楽に治療が受けられるよう医療チームと協働してサポートするとともに、その為に、より良い看護を継続的に提供できるよう、看護スタッフへの教育と支援も行っています。

また、慢性腎不全を患ってみえる患者さんに対して、透析予防及び治療法を納得して選択できるようお手伝いすることも私の役割の一つです。

腎臓の病気は、はじめのうちは全く自覚症状がないため、病気に気づきにくいのが特徴です。健康診断などでタンパク尿を指摘されたら、放っておかず専門医の診察を早めに受けられることをお勧めします。透析に関する不安や困っていることなどがありましたら、いつでもご相談ください。

## 医療チーム

## 初の糖尿病週間 院外イベントを終えて

インスリンを発見したバンティング博士の誕生日である11月14日は、世界糖尿病デーと称し、糖尿病の予防・治療に関心を持っていただくよう、世界各国で様々なイベントが開催されます。



中部ろうさい病院では2014年から11月14日を中心とした1週間を「糖尿病週間」とし、糖尿病サポートチーム(糖尿病患者の治療や療養支援を実践するためのサポートチーム: D S T)を中心として院内で健康相談やポスター掲示などのイベントを行ってきました。

そして今年度は、より多くの地域の方々に糖尿病に関心を持っていただくこと、「アピタ東海通店」にご協力いただき、血糖や血圧測定、In Body測定、医師・薬剤師等による健康相談、食事に関するクイズ&スタンプラリー、理学療法士による筋力アップ運動といった多数のプログラムを出張開催いたしました。

病院を離れて外で開催するイベントは初の試みであり、また、金曜日の午後という時間帯でしたが、多くの方に参加していただき「この次はいつ開催しますか」「参考になりました。また、行ってください」などの温かいお言葉



外来看護師長  
鈴木 美代子



糖尿病看護認定看護師  
平松 一葉

をかけていただきました。

日本の総人口の1割が糖尿病患者とその予備軍と言われていますが、糖尿病の重症化予防のためには早期発見・早期治療が大切です。中部ろうさい病院では、東海地区随一の機能を持つ「糖尿病センター」を中心に、院内外の連携を図り糖尿病の予防・治療にあたっています。糖尿病は痛みなどの自覚症状が少ないため病院を受診されない方も多いようですが、そのような方が少しでも糖尿病に関心をもっていただけるよう、また、地域の方がご自身の身体や健康に興味を持っていただけるような楽しいイベントを今後も続けていきたいと思っております。




 医師

## 第12回 市民健康セミナー開催報告

耳鼻咽喉科医師 楊 承叡 ※楊医師は12月末で当院から転勤しています。



平成28年11月19日(土)、当院講堂で第12回市民健康セミナー『がん医療の最前線～乳がん・前立腺がんを知る～』が開催され、約130人の地域の皆さまにご参加いただきました。

まず、加藤文彦院長より「前立腺がんは男性のみが罹患しますが、乳がんは誰でも罹患する病気です。」という前置きで御挨拶をいただきました。皆さんぐっと惹かれたようで終始とても真剣に聞いておられました。

続いて、がん化学療法看護認定看護師の後藤真澄師長から「もしもあなたが、がんと診断されたら誰に相談しますか」と題した講演がありました。がんは高齢者の病気と考えがちですが、実は50～60代の働き盛りで亡くなる方が多いようです。「向き合い方は人それぞれ、まずは大切な人を思い浮かべて相談してみてください。」との提案がありました。

次に、泌尿器科 小谷俊一部長から「前立腺がんの話～実は気づかれにくい病気・前立腺がんを知ろう!～」と題した講演があり、とにかくPSA検診が大事と幾度も強調されました。2020年にはおそらく前立腺がんの罹患率が全がんの中でトップとなるそうです。50歳以上の名古屋市民なら、年1回500



円でPSA検診を受けられますので、体調のよい時に検診を受けるよう勧められました。

3本目の講演として、外科・消化器外科 水谷哲之副部長から、「乳がんについて～早期発見・早期治療のためにすべきこととは?～」と題したお話がありました。乳がん



患者は増加傾向にあり、現在11人に1人が罹患するようです。予後は比較的良好であり、早期発見・早期治療が肝要で40歳以上であれば2年に1回の検診が推奨されているそうです。検診と検診の間に発症することもあるので自己触診でしこりがないか確認する事も効果的と結びました。

今回は2つのがんに関する一般的な知識と早期発見・早期治療の重要性について、大変分かりやすく説明していただき、最後に、「当院にはがん相談のサポート体制が整っているので、困った時にはいつでも御活用ください。」との坂口憲史副院長のお言葉で今回のセミナーは締めくくられました。

今回のセミナーが、皆さんががん予防に関心を持つきっかけになれば、このセミナーの運営に携わった広報委員会メンバーとして、大変嬉しく思います。

当院では年2回、市民健康セミナーを開催し、そのうち1回はがんをテーマにしております。どなたでも参加でき、一般の方でもわかりやすい内容となっていますので、ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

- ・参加費：無料・事前申し込み制です。
- ・病院HP、病院掲示のほか、新聞掲載でも開催をご案内いたします。

## 院内行事のご紹介

### ★糖尿病バイキング教室★

毎月恒例の糖尿病バイキング教室を1月17日(火)に開催しました。入院患者さん対象に退院後の食事を想定し、決められた栄養量の中でメニューを選びました。糖尿病・内分泌内科医師、管理栄養士、理学療法士によるお話や体操を行い好評でした。

外来でも年2回行っておりますので、ご興味がありましたら是非ご参加下さい。



### ★ホスピタル・クラウンが来てくれました!★

10月25日(火)及び12月6日(火)当院5階デイルームにてホスピタル・クラウン



によるパフォーマンスを行いました。

「ホスピタル・クラウン」とは、病院で活動するクラウン(道化師)のことです。

クラウンの方はボールや風船を使って次々と芸を繰り出し、血回しには患者さんも参加して、とても楽しいひと時を過ごすことができました。

### ★ピアノカのコンサートを開催!★

毎年数回、院内コンサートを開催していますが、1月31日(火)はピアノカバンド「Amitie(アミティ)」の皆さんの演奏で、ラテンの名曲や童謡、CMでなじみ深いポップスなど、実に幅広いジャンルの楽曲を聞くことができました。ピアノカは幼稚園や小学校で使用することの多い楽器で、小さいころに触ったことのある方もいらっしゃるかと思いますが、想像以上に多様な音を出ることができる楽器だということがわかり、驚くとともにとても楽しいひと時となりました。



今後も地域の皆様に楽しんでいただけるようなイベントを開催していきますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

### ○人間ドック(日帰り・宿泊)を行っています

ご自身の健康状態を把握して生活習慣を改善したり、自覚症状のない疾患を早期発見するためには、定期的な人間ドックの受診が有効です。

お問い合わせは ☎052-652-5511(内線3200)まで(平日午後1時~4時半)



### 当院の理念

納得、安心、そして未来へ

### 当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

### ～ 編集後記 ～

例年よりも緩やかな寒さで新しい年を迎えましたが、1月中旬からは寒さも増し、積雪の日もありました。インフルエンザが全国的に流行し、大変だった方もいらっしゃるのではないのでしょうか?

今号のフィリアレターでは、糖尿病週間のイベントで地域へ出向いたことや、透析認定看護師の紹介を掲載させていただきました。専門分野の医療情報や療養生活について今後も院内外に発信してまいります。(A・Y)